ジンバブエ経済（経済情報の週間とりまとめ：11月第2週目）

- 1 政府、電力供給量向上の為の資金確保
- 2 ムナンガグワ大統領、ジンバブエ投資開発庁（ZIDA）法を財務省管轄から除外
- 3 アフリカ輸出入銀行、10億米ドルの新制度を導入
- 4 ジンバブエ中央銀行（RBZ）、電子通貨の利用促進

1 政府、電力供給量向上の為の資金確保

政府は、ワンゲ火力発電所1～6号機修繕の為の資金3億1千万米ドルを確保した。これにより、他発電所のメンテナンスやカリバ発電所での水量減少、電力輸入量の減少といった重なる要因により多くの地域で起きている一日16時間にも及ぶ停電状況の改善が期待される。モヨ・エネルギー大臣は、「現在すでにワンゲ火力発電所4号機の修繕に取りかかっており、11月25日頃にはそれが終了し、送電網に90MWが追加される予定である。」と述べた。（11日付、デイリーニュース紙）

2 ムナンガグワ大統領、ジンバブエ投資開発庁（ZIDA）を財務省管轄から除外

ムナンガグワ大統領は、ジンバブエ投資開発庁（ZIDA）を財務省管轄から除外した。これにより、ムナンガグワ大統領が、国の主要経済軸をコントロールし権力を固めていく為に、ZIDAを大統領室管轄下に移すのではないかと懸念が高まる。現行のZIDA法案では、ヌーベ財務・投資促進・経済開発大臣が、国内外投資家からの投資促進の為の計画や実施を担当し、また投資活動の地方分権化や投資事業の調整実施なども担っていた。（11日付、ニュースデイ紙）

報道リンク：<https://www.newsday.co.zw/local-news/article/200019383/ed-clips-mthulis-wings>

3 アフリカ輸出入銀行、10億米ドルの新制度を導入

アフリカ輸出入銀行は、10億米ドルのアフリカ共同輸送保証制度（AACTGS）を導入した。オラマ・アフリカ輸出入銀行会頭は、同制度は画期的な制度であるとし、「アフリカ大陸において史上初となる複数の国境利用における輸送を保証する制度であり、国境を越えた貿易の競争性を高める。本銀行と東南部アフリカ共同市場（COMESA）との協力は、障壁なく、一つの輸送保証書のみでアフリカ大陸内でのモノの移動が可能とされる。」と述べた。同制度により、年間約3億米ドルもの輸送コストが削減されると予測される。（14日付、ヘラルド紙）

報道リンク：<https://www.herald.co.zw/afreximbank-launches-revolutionary-uslbn-scheme/>

4 ジンバブエ中央銀行（RBZ）、電子通貨の利用促進

ジンバブエ中央銀行（RBZ）は、国内の基本消費財品目の価格が高騰していることから、ビジネス界や一般市民を含む全てのジンバブエ国民に対して、電子で取引することを推奨した。未だに現金で支払いをする者もいるが、現在、国内で行われている取引の少なくとも95%以上が電子で行われている。（15日付、デイリーニュース紙）